

# おいでんバスを 地域住民の視点から考える ～必要性と維持に対する協力意向～

公益財団法人 豊田都市交通研究所

主任研究員 加知範康



## 背景① 厳しい財政状況と自治体運行バス

- 地方都市では、自治体運行バスの経済的負担は非常に大きく、抜本的解決が必要
- 自治体運行バス運行財源調査(H21、TTRI)
  - ➔ 収支状況は支出より収入の獲得如何によって影響
  - ➔ 収支率が高い自治体ほど様々な種類の財源を獲得  
財源例: 運賃、国・都道府県補助、寄付金(個人、市民団体、企業)、広告、ネーミングライツなど

## 背景② 豊田市では・・・

- 公共交通基本計画に基づき、**おいでんバス14路線、地域バス16地域**を整備
  - 運賃収入で賄えない部分は市が負担
- **財源獲得・地域協力**を含めた運営の**継続的見直し**が必要
  - 地域住民の**バスの必要性**を把握
  - 地域住民の**協力**は大きな力

## 目的 バスの必要性和協力意向

沿線住民アンケートに基づき、地域住民の協力によるバスの維持の可能性を探る。

### ① 移動手段としてバスの必要性

→ 1) 車を使えなくなったら? / 2) 現在・将来に亘る必要性

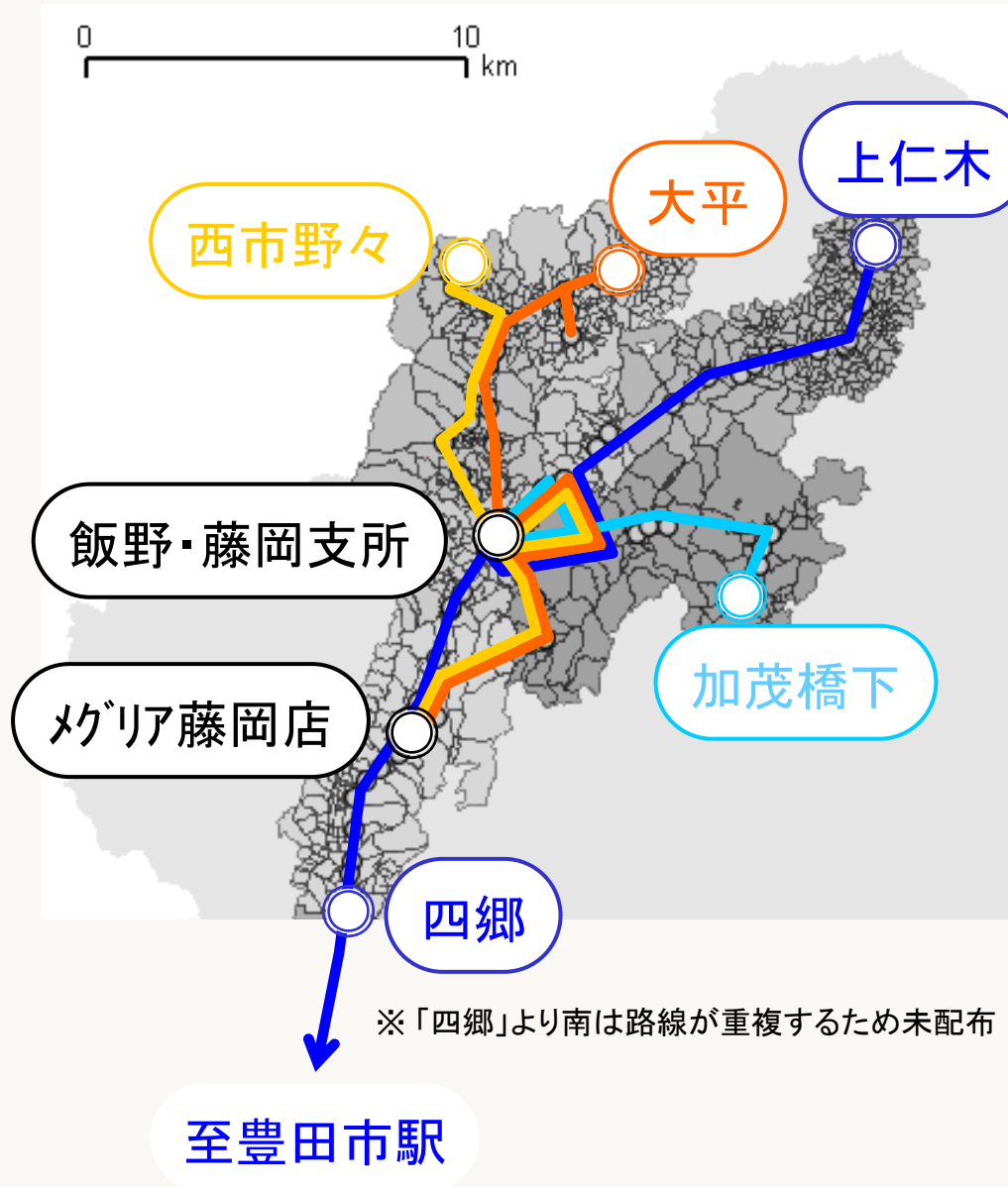
### ② バス維持への協力意向

→ 1) バスの利用促進 / 2) 募金による金銭的な協力

### ③ バスの必要性和協力意向の関係

→ **バス維持**や**公共交通評価の方法**に有用な示唆

# 調査対象とした路線・地域



## 基幹バス

小原・豊田線  
川口・飯野線

## 藤岡地域バス

三箇線  
西市野々線

バス停から半径1km  
にかかる町丁目

## アンケート実施日、項目等

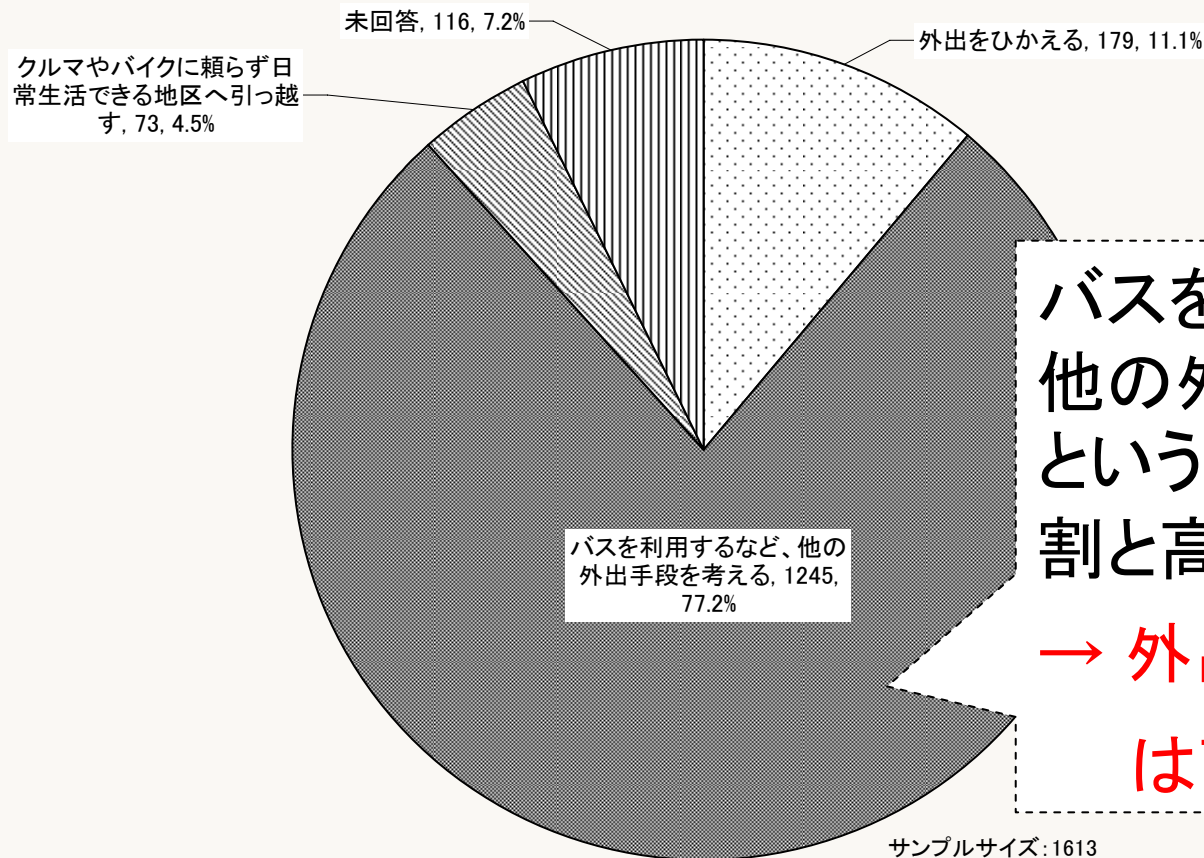
調査日	2011年11月17日(水)
対象者	基幹・地域バス4路線沿線の3千世帯 (1世帯に2枚の調査票を配布、合計 6,000枚、世帯抽出率:1割)
調査項目	個人属性／車を運転できなくなったと きの対応／バスの必要性／バスの維 持に対する協力意向など
配布回収	ポスティング配布・郵送回収 1,613／6,000枚(26.9%)

## 回答者の属性

年齢	50代以上 (60%)
性	男 (40%) 女 (60%)
職業	就業者 (50%) 専業主婦・無職 (40%) 学生 (10%)
世帯構成	二世帯 (50%) 夫婦 (30%) 三世帯 (14%) 単身 (5%)
クルマ保有	持っていて自由に使える (80%) 持っていない (約14%)

# 結果① 1) 将来、車を使えなくなったら？

Q: 年をとって、クルマやバイクを自分で運転して外出できなくなり、  
外出が不自由になったらどうしますか。



バスを利用するなど、  
他の外出手段を考える  
という回答割合が約8  
割と高い  
→ 外出したい希望  
は高い

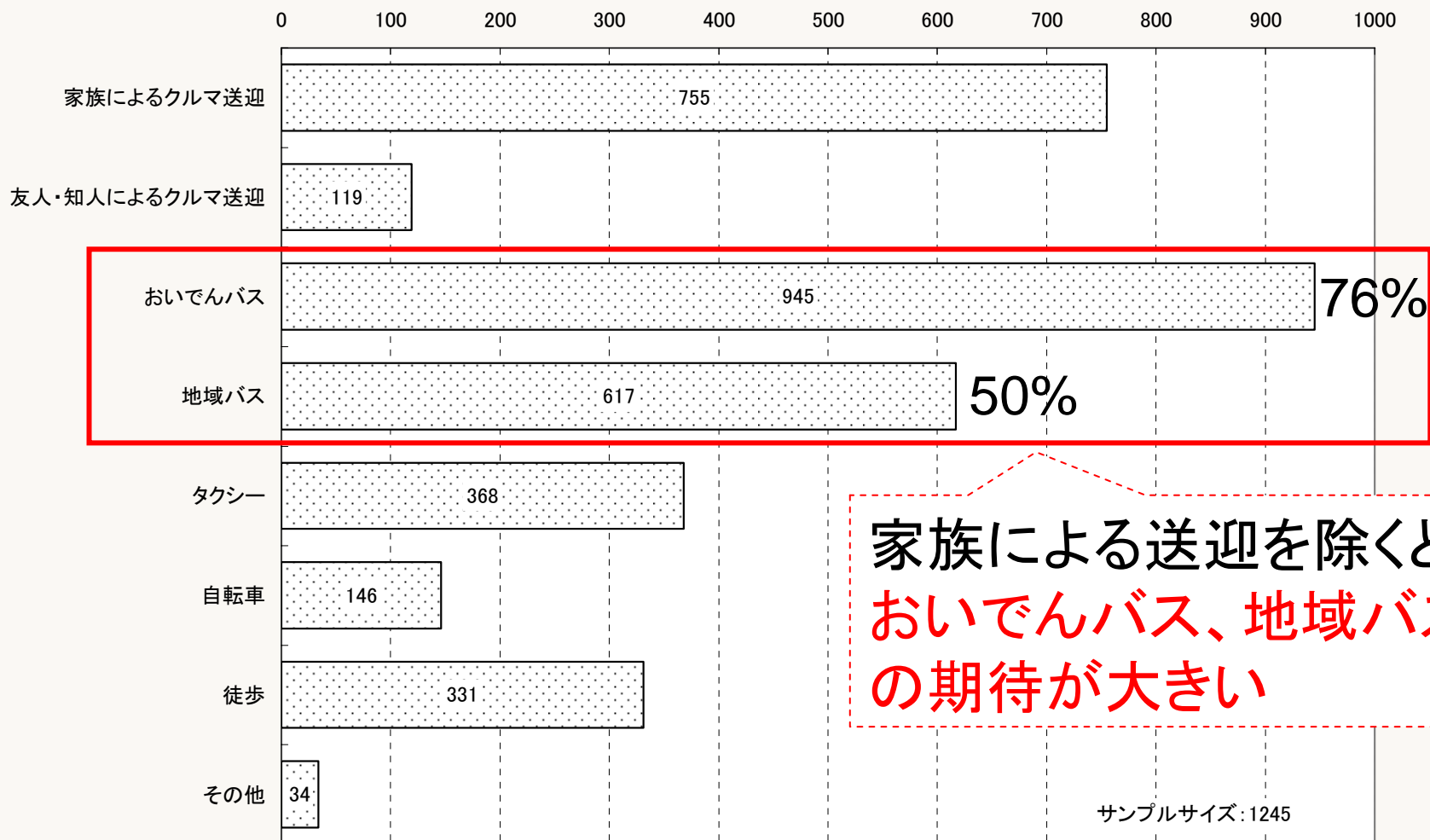
サンプルサイズ: 1613

□ 外出をひかえる ■ バスを利用するなど、他の外出手段を考える ▨ クルマやバイクに頼らず日常生活できる地区へ引っ越す □ 未回答



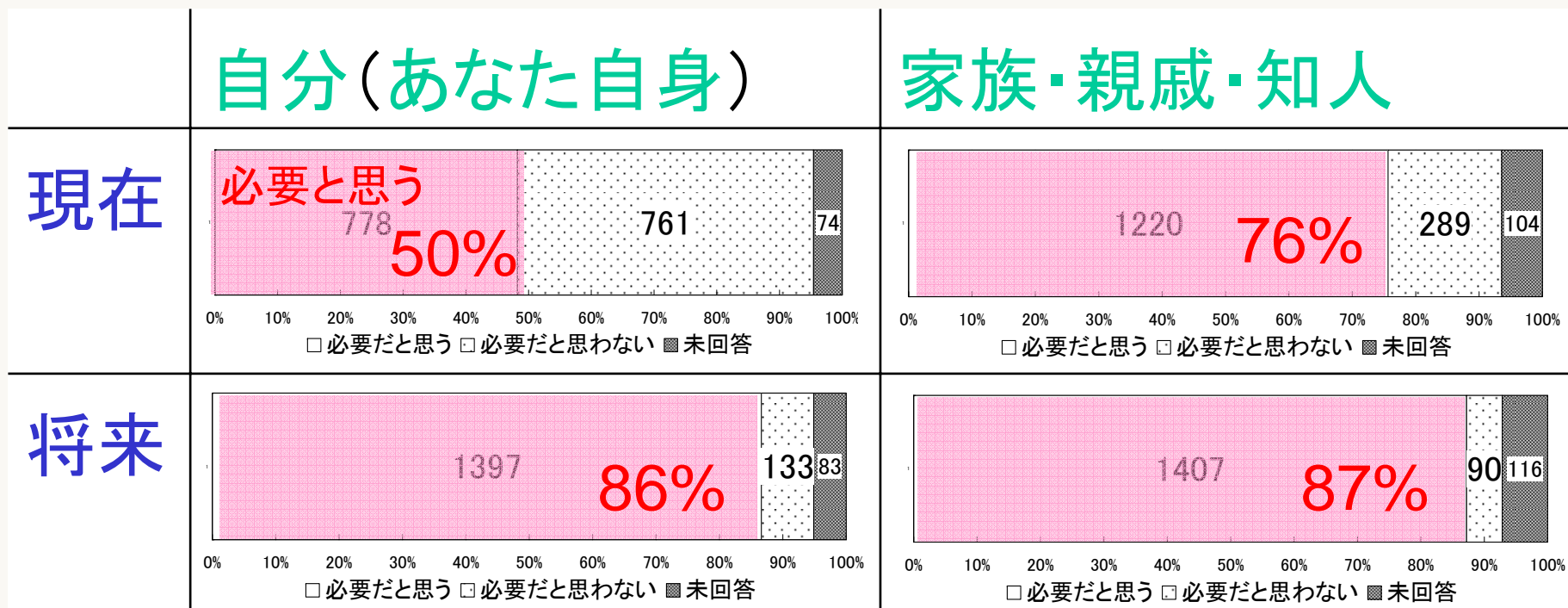
# 結果① 1) 将来、車を使えなくなったら？

Q:クルマやバイク以外の外出手段と考えられるものは何か。



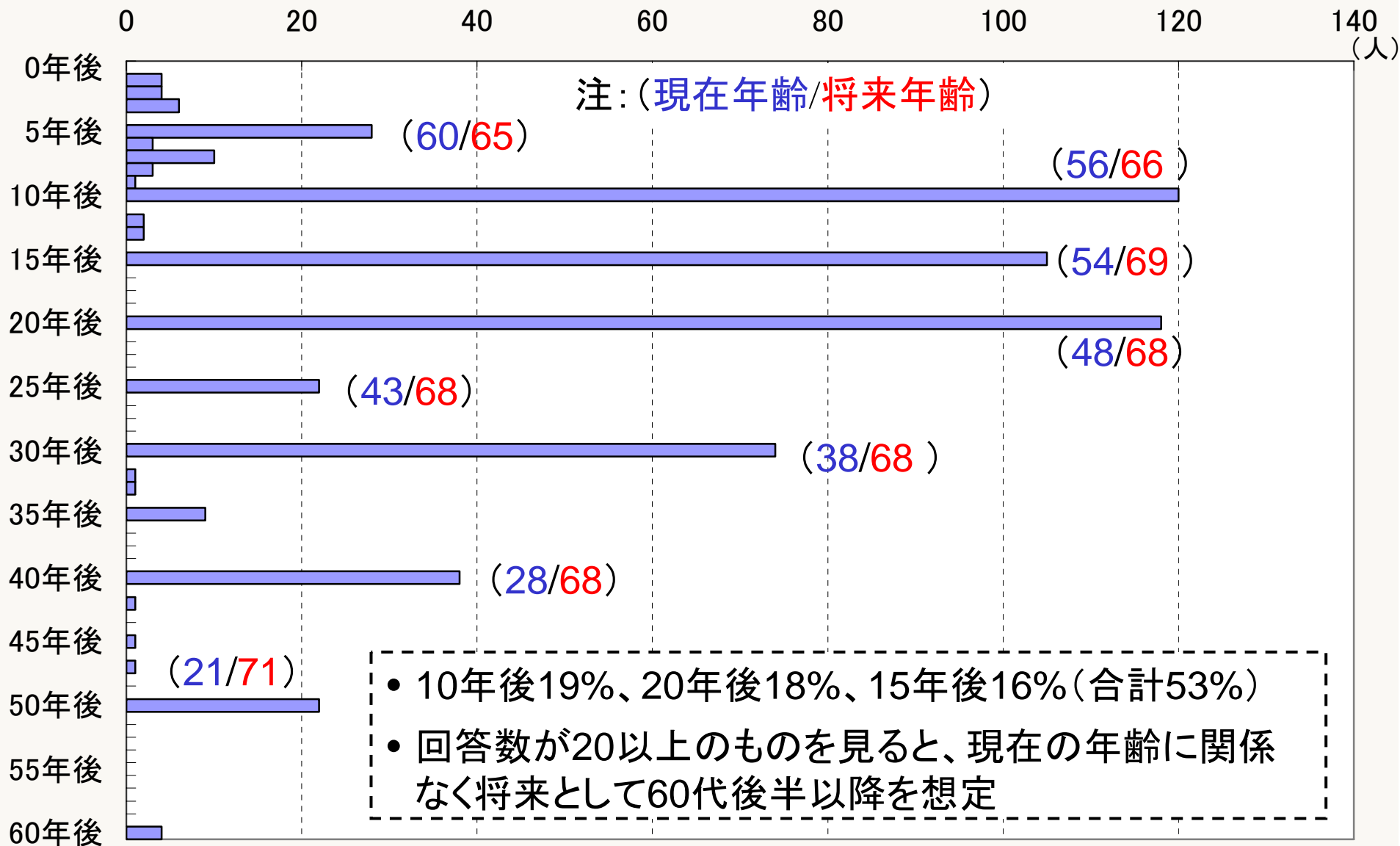
家族による送迎を除くと、  
おいでんバス、地域バスへの期待が大きい

# 結果① 2) 現在・将来に亘る必要性(いつ、だれに)



- いつで見ると、**将来** > **現在**
  - ➔ 将来は、クルマを使えなくなる
- **だれに**で見ると、**家族・親戚・知人** > **自分**
  - ➔ 他者を思いやる気持ち、地域の協力の可能性有り

# 現在は必要はないが将来必要と回答した方の将来想定



## 結果① 2) バスを必要と**思う**/**思わない**理由

	あなた自身(自分)	家族・親戚・知人
現在	<p><b>思う</b>: 車を運転できない／飲酒したときの足</p> <p><b>思わない</b>: 車を運転できる／車の方が便利</p>	<p><b>思う</b>: 車を運転できない／他の移動手段がない／送迎してもらえない／通学に利用</p> <p><b>思わない</b>: 車を運転できる／送迎する</p>
将来	<p><b>思う</b>: 年をとると車の運転ができない、困難、危ない／送迎してくれる人がいない</p> <p><b>思わない</b>: 車を運転できる／送迎してもらう</p>	<p><b>思う</b>: 車を運転できない／通勤・通学(高校、大学)で必要</p> <p><b>思わない</b>: 車を運転できる／行きたいところいけない／送迎する</p>

※ 自由回答結果をテキストマイニング(名詞、形容詞、動詞を対象としたトリグラムで、共起頻度が5以上(最大頻度が5未満の場合は最大頻度のもの)のもので作成したネットワークグラフ)したものをベースに作成。

## 結果② バスの維持に対する協力意向

本調査では、2つの面から調査

### ① バスを直接利用して協力

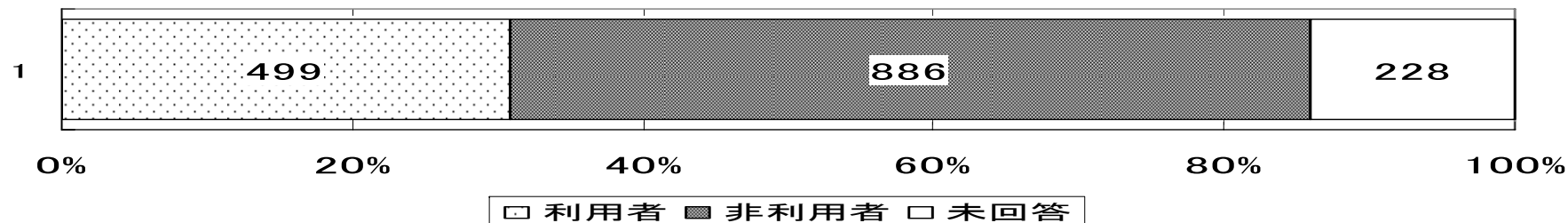
- バスの利用者の場合 : 今後、継続／頻度を上げて利用
- バスの非利用者の場合 : 今後、できるだけ利用

### ② 募金による金銭的な協力

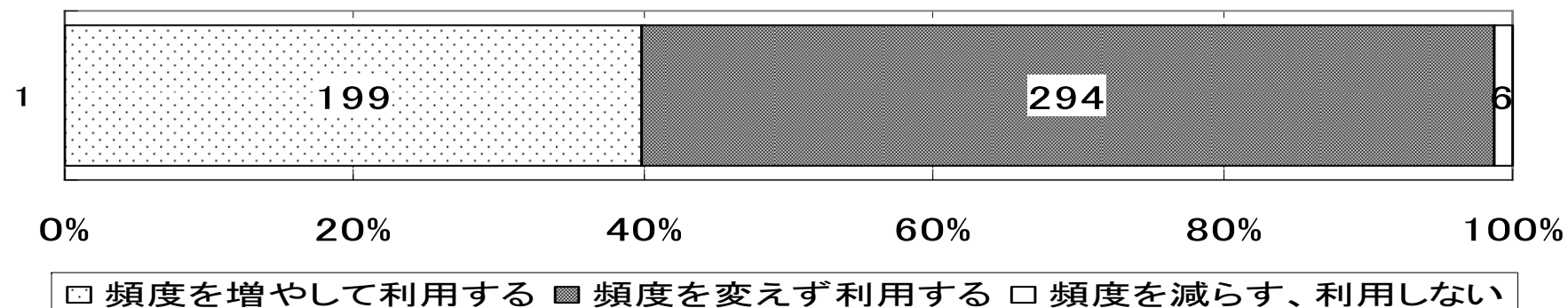
- 質問: もし仮に、市からの負担にたよらず、バスを利用していない方も含めて住民同士の協力のもと、現状のバスサービスを維持していくために1年間にいくらまでなら募金してもよいと思いますか。
- 選択肢: 500円、1,000円、1,500円、2,000円、2,500円、3,000円以上、募金したいとは思わない
- 参考情報: 「平成21年度、約5億6千万円を市が負担し、市民1人当たり年間約1,300円を使っていることになる。」

# 結果② 1)バス利用による協力意向はあるか？

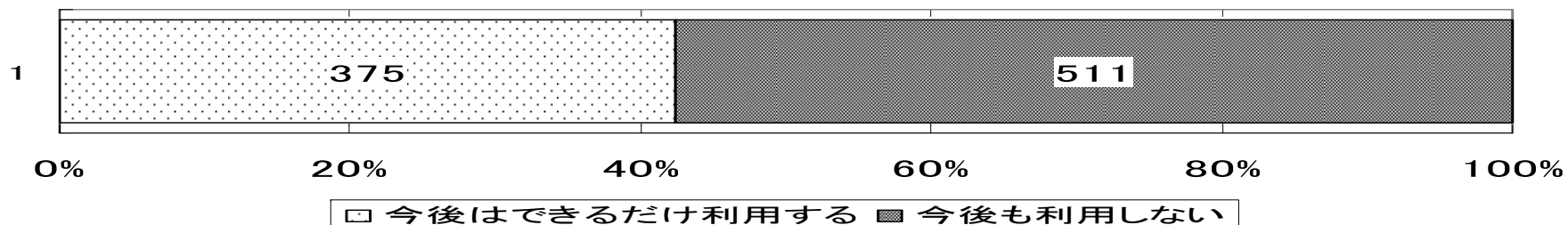
## 1)バスの利用者状況



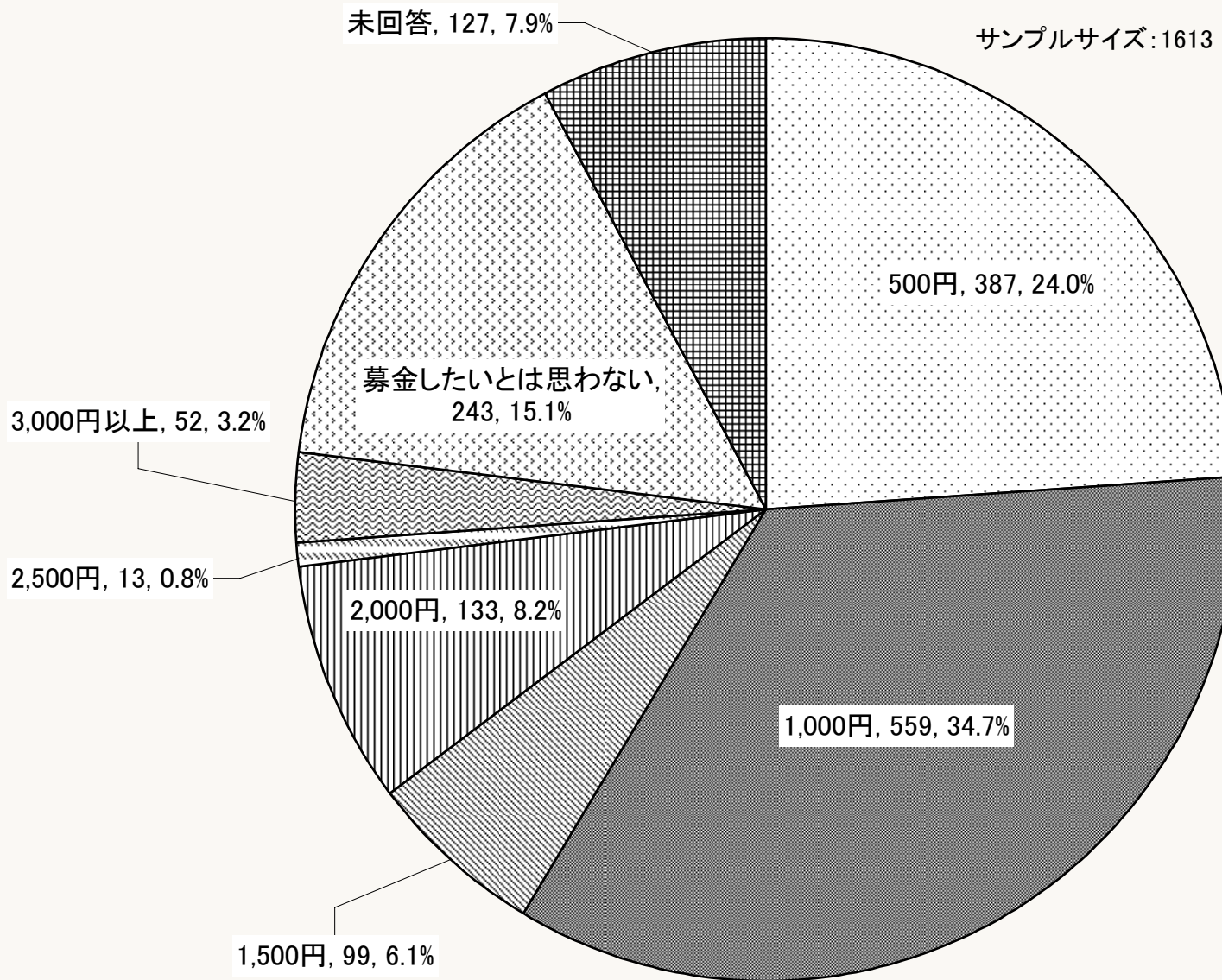
## 2)バス利用者では



## 3)バス非利用者では

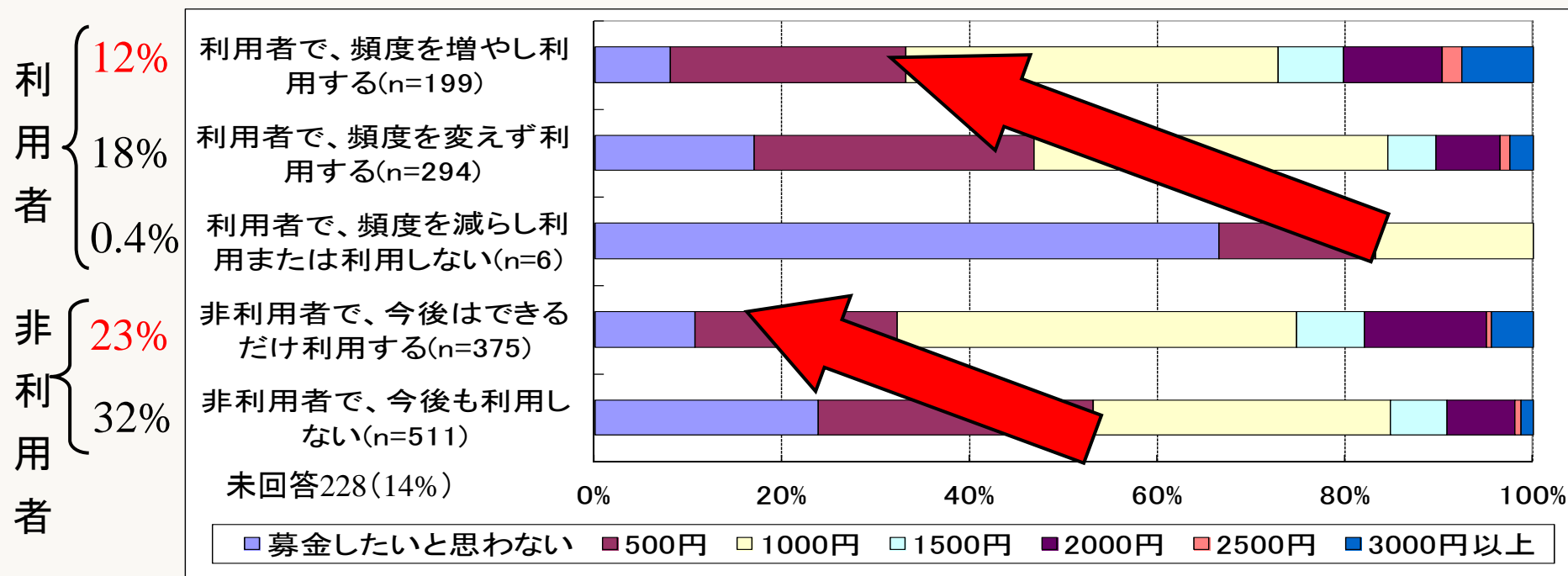


# 結果② 2) 募金による協力意向はあるか？



□ 500円 ■ 1,000円 ▨ 1,500円 ▩ 2,000円 ▪ 2,500円 ▫ 3,000円以上 □ 募金したいとは思わない ◻ 未回答

## 結果② バス利用と募金による協力意向



- 利用による協力: **36%** (頻度を増やす、今後は利用)
- 募金による協力: **77%** (募金額が500円/年以上)
- 募金額は、**500~1499円/年**の割合が高い。
- 利用協力意向が高いほど、募金協力意向も高い。
- **非利用者で今後も利用しない人: 募金協力意向あり。**



# 結果③ バスの必要性と協力意向の関係

自分		知親家 人戚族		募金 協力額の 平均値 (円/年)	サン プル
現在	将来	現在	将来		
○	○	○	○	965	604
○	○	○		1,100	5
○	○		○	755	47
○	○			875	8
○		○	○	654	13
○		○		1,250	2
○			○	500	5
○				0	2
	○	○	○	936	433
	○	○		556	9
	○		○	817	126
	○			913	23
		○	○	515	33
		○		833	3
			○	759	27
				442	26

- **1番多い意見**は、4つ全てで必要(965円/年)
- **2番目に多い意見**は「自分・現在」以外の3つで必要(936円/年)
- **3番目に多い意見**は「将来」&「自分/家族・親戚、知人」の2つで必要(817円/年)

- サンプルが多いものでみると、必要と思う状況が多いほど、募金協力額も高い。
- 自分以外の必要性も重要

## まとめ① バスの必要性と協力意向

- 将来、車を使えなくなったときの移動手段として、おいでんバス(76%)、地域バス(50%)は期待されている。
- バスを必要と思う状況への回答は、現在より将来、自分より家族・親戚・知人の割合が高い。
- バス維持への協力意向は、利用による協力36%(頻度を増やす、今後はできるだけ利用)、募金による金銭的な協力77%(募金額が500円/年以上)となった。  
→ 非利用者で、今後もしない人でも、募金による協力意向がある。
- バスを必要と思う状況が多いほど、募金による金銭的な協力額も高い。

## まとめ② 例えば、...

利用者が少なく、市の負担が大きな路線に  
どう対応していくべきか？

協力意向 ↑

### 必要性：低

- 必要性は低いですが、移動手段を必要としている人はいるので、そのニーズにあったサービス水準・サービス提供方式を検討する。

### 必要性：高、協力意向：高

- 協力意向を現実のものとするための仕組みを検討。
- 地域での募金、定期券、回数券の購入など

### 必要性：高、協力意向：低

- 必要性が高いことを地元住民にフィードバックする。
- バスを必要としている人が多いことを理解いただいた上で、協力を進める。

必要性 →

## 【謝辞】

アンケート調査の実施では、住民の方々、交通政策課、猿投・藤岡・小原支所の方々に、多大なご協力いただきました。  
誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。